

## 第 1 回丸森町復興推進委員会について

会議名	第 1 回丸森町復興推進委員会
日時	令和 2 年 1 月 24 日(金) 13:30~15:30
場所	丸森町役場 3 階 302 会議室
出席者	委員：名簿のとおり 20 名 町：町長、副町長、復興対策監、教育長、総務課長、企財課長、町税課長、保健福祉課長、子育て定住課長、農林課長、商観課長、建設課長、災害復旧対策専門官、生涯学習課長、病院事務長 事務局：復興推進室長ほか室職員 3 名

## 議 題

## (1) 委員長の選任について

互選の結果、佐藤勝栄委員（丸森地区）が委員長に選任された。

## (2) 副委員長の選任について

互選の結果、柴山明寛委員（東北大学災害国際研究所准教授）が副委員長に選任された。

## (3) 「(仮称) 丸森町復旧・復興計画」の策定について

事務局より配布資料（丸森町復旧・復興基本方針及び計画策定スケジュール）について説明を行った。

その後、各委員の自己紹介を含め、今回の災害を受けて、町の復旧・復興に向けた各委員の想いや意見等を述べてもらった。

○佐久間新平委員（丸森地区）：五福谷地区に住んでいるが、今回の台風で激しい被害を受けた。私も土石流により、自宅を失ったのと同様の状態である。集団移転などの話も含め、町の再建に向けて微力ながら関わっていきたいと思う。

○佐藤隆一委員（金山地区）：金山地区は雉子尾川の越水により床上浸水が多い地区である。今回の委員会に参加させていただいて、次の世代にいい町を残していきたい。復興計画に対する進言だが、項目が複数あるが、各々に目標値をつけて検証できるようにしてもらいたい。スケジュール確認をできるようにしていただきたい。

○佐久間徹委員（筆甫地区）：筆甫地区は台風で（幹線道路が寸断され、）孤立してしまった。私の家は被災を免れたが、地区内には全壊した建物もあった。私にも子供がいるため、子どもたちが安全安心に暮らせるまちづくりに協力したい。

○渡邊委員（大内地区）：大内地区もいろいろと台風被害を受けた。ボランティアにも参加したが、自身の中で思うことも多かった。温暖化の時代なので、安心して暮らせる

まちにしてもらいたい。強固な町、活性化した町にってもらいたい。

- 早川委員（大内地区）：佐野で宿を経営しており、被害を受けたが重いものではなく、1週間程度で再開できた。丸森町に惚れ、（地域おこし協力隊として）ここで宿を始めたが、自慢の里山を再生して、国内外から多くの方に来ていただけるように頑張りたい。
- 今野委員（小斎地区）：私の住んでいる中原地区は、ほとんどが床上浸水した。次世代につなぐまちづくりを意識し、子どもたちや若い人が残って頑張れるようなまちづくりに貢献できるように取り組みたい。
- 吉野委員（館矢間地区）：自分の子どもは、子どもながらに丸森町に将来的に残りたいと言っている。そのような、将来、子どもたちが喜んで生きていける町にしていきたい。
- 佐藤多恵委員（大張地区）：今回の災害で、丸森の多くの人は大なり小なり被害を受けたと思うが、周囲の家も被害を受け、私の家も所有している農地の9割が被害を受けた。来年の作付けをどうしようか家族と相談している。周囲の全壊・半壊の方は、住まいを離れて生活している。今後も同じ災害が来ると考えているが、想定外の災害が来た時どうするのか。今後の町の産業がどうなっていくのか心配している。歌をやっているので、この町のことや状況を言葉（メッセージ）として発信していきたい。
- 大槻委員（耕野地区）：台風被害への対応をまちの職員（災害対策支部職員）とともに取り組んできたが、災害への準備、対応のスピードなど、後手に回ったと感じている。起きてしまったことは仕方がないので、今後どのように対応するかが重要であり、スピード感をもった復興が求められると思う。
- 川村委員（丸森町住民自治組織連絡協議会会長）：8つのまちづくりセンターはそれぞれ被害を受けた。館矢間まちづくりセンターは（水害の）避難所になっていないが、防災拠点としての役割を果たしたと認識している。館矢間地区は、防災モデル事業として取り組んでいた矢先であった。災害に強い地域づくりに取り組んでいきたい。地震とは違い、今回の災害は大雨によるもので、今後このような異常気象が繰り返されると考えている。これから復旧・復興計画を立てていくと思うが、重要なのは対応の優先順位だと思う。未だに裏山のひび割れなど、生活に不安を抱えている人がいると思うが、そういったことを意識し、優先順位を考えて災害対策を進めてもらいたい。
- 谷津委員（丸森町社会福祉協議会事務局長）：ボランティアセンターを設置して、延べ16,000人を超えるボランティアが訪れている。ボランティアは住宅の復旧を中心に活動してきた。昨年末に仮設住宅が整備され、（地域支え合いセンター事業を通して）

入居者や在宅避難者の見守り、相談支援を行っている。生活相談支援員 5 名を採用し、来週から巡回訪問を予定している。復興のポイントの中に住まいの再建・被災者の心と身体のケアとあるが、安らぎのある暮らしの再建や、被災者の心と身体のケアが重要になってくる。

○白木委員（丸森町商工会会長）：商工会の会員が 330 名で、そのうち 270 名が被害を受けている。グループ補助金などの申請を支援しており、職員、役員一丸となって取り組んでいる。今後も商工業者の方にはこれまでと変わらずに営みを続けてもらいたいと考えている。

○阿部委員（JA みやぎ仙南丸森地区事業本部長）：JA も床上浸水があり、その間皆さんにご迷惑をおかけした。今は皆さんの協力のおかげで元の店舗で再開ができるようになった。今回の想像を超える被害から復旧するために、この委員会に参加した。町の基幹産業である農業の復興と、次世代に残すまちづくりについて皆さんと力を合わせ進めていきたい。また、質問であるが、農家の皆さんは、農地の復旧の見通しが立たない状況に不安を抱いており、今年の作付が可能かどうかをお聞きしたい。

○作間委員（丸森町森林組合組合長）：今回の災害はこれまでにないものとなったが、山が崩壊したところは住宅もやられている。山の被害をよく確認し、二次災害、三次災害が発生しないように治山・治水に取り組んでほしい。中山間地の裏山は崩れた箇所が多くあるが、（応急対応のため、）崩れたところの木を組合が伐採した後に、法止めをして崩れないように対処していかなければならない。林業・道路の復旧に向けた要望も県などにしており、先日、（県の？）森林組合の会議でも丸森を優先すべきと言ってもらっている。この委員会でも自身のできることを行いながら、中山間地においても安心して暮らせるまちづくりを進めたい。

○向井委員（丸森町消防団団長）：消防活動を通じ、様々な状況を見てきた。それによると避難割合が低いと感じた。町ではすべてを管轄するのは難しいと思うが、小分けしたピンポイントの避難指示や、訓練、組織を作りながら、備えていただきたいと思う。地域ごとに災害時に機能する自主防災組織の醸成が必要であり、今回のような多くの犠牲を出さないように減災を進めていきたい。また、農業もやっているが、2月に入って種もみ、ハウスを準備する時期になっている。農地復旧の目途がたっていない。早期の農業再開を目指し、耕作放棄にならないようにしてほしい。最後に人口は大きく減少しており、電気がついている住宅が少ない。被災した方が町外へ流出しないように住宅支援などに取り組んでもらいたい。

○伊藤委員（宮城インバウンド DMO 常務理事）：役場 OB であり、今回の災害においては、これまでの経験を活かしながら、民間、地域住民という 3 つの立場で活動ができたと思う。この委員会でもこの 3 つの立場の経験を活かし、役に立ちたいと思う。

○齋藤委員（丸森町 PTA 連合会会長）：金山小学校も被災してしまい、その時の子どもの悲しい、不安な顔は忘れられない。子どもに悲しい思いをさせない、まちづくりが必要である。PTA としては災害に強いまち、子どもが安心して遊べる場所、子育て世代が交流できる場所を増やして行きたい。

○星委員（丸森町連合婦人会副会長）：自分の家は被害を受けないだろうと思っていたが、自宅は 140 cm 浸水し、3 日間泥水が溜まったままだった。自分は避難所から家に戻ることはできたが、（避難所には）高齢者が多かったので、（避難所に留まり）避難所生活をしながら、支援を続けた。知り合いばかりで、和気あいあいと過ごすことができ、協力して味噌汁等を作っていた。（避難所生活が長期化する中で）このまま続けても良いと思っていたが、避難者の元の生活を取り戻すという意識を持たせるためにも（自立を促すためにも）、ある時点で避難所を出た。その後、他の高齢者の皆さんも自宅へと戻っていった。このようなことがあったが、何かの役に立てれば良いと思う。

○柴山副委員長：5 年前から丸森町に入っており、3 年前から金山、昨年から舘矢間で自主防災組織の立ち上げに取り組んでいた。（東北大学と丸森町とで）防災に関する包括協定も結び、これから災害に備えようという時に災害が来た。もう少し早く入っていればと責任も感じているが、今後専門的・科学的・数値的な知見を活かし、皆さんにアドバイスをできればと思う。

○佐藤勝栄委員長：私は観光の仕事（丸森町観光物産振興公社）をやっているが、現在は廃業寸前となっており、稼げない状況にある。災害後キャンセルが相次ぎ、また客を戻せばよいという人はいるが、一度離れた客はなかなか戻らないと思う。マスコミの応援を頂きながら頑張っており、何とか戻したいと旅番組で紹介してもらうなど画策している。町にお願いするが、（復興ポイントの施策のうち）どれが町でどれが国・県の施策かを示してもらえれば、我々が検討する上で役に立つと思うので、やってほしい。自分が住む田町行政区にだけ自主防災組織がなく、一人もまちづくりセンターに避難しなかった。また、自分の地区の避難所は低い位置にあり、結局誰も避難所に行かなかった。こういった小さなことにも目を向け、皆さんと対策の話を練っていききたい。

○事務局：貴重な御意見ありがとうございました。事務局としても計画策定に役立てたい。阿部委員より質問のあった農地の作付けに関する見通しであるが、災害普及対策専門官より説明をさせる。

○災害復旧対策専門官：甚大な災害により農地の復旧に時間を要すると感じている。災害査定を先週終了し、来週から、被害農地の農家の方との話し合いができることとな

った。残念ながら、令和2年から作付けが難しい状況にあるが、農地ではなく、農業用水のみの被害であれば、営農に間に合うように復旧させたい。農地復旧の事業に伴う農家負担は5%と周知していたが、1%以下で実施できることになる。皆さんと協力して、町の水と緑を取り戻していきたいと思うので、御協力をお願いしたい。